

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR F 作業班 (第 18 回) 議事要旨 (案)

日時：平成 30 年 11 月 27 日(火) 13:30~16:30

場所：中央合同庁舎第 2 号館 10 階 1001 会議室

出席者(敬称略)：

(構成員)

| | | |
|------|-------|---|
| 主任 | 山下 洋治 | (一財)電気安全環境研究所 横浜事業所 EMC 試験センター 所長 |
| 主任代理 | 平伴 喜光 | (一社)KEC 関西電子工業振興センター |
| 構成員 | 井上 正弘 | (一財)電気安全環境研究所 横浜事業所 EMC 試験センター |
| | 大武 寛和 | (一社)日本照明工業会 委員 |
| | 梶原 英樹 | (一財)日本品質保証機構 安全電磁センター試験部電磁環境試験課 主幹 |
| | 菅野 伸 | NTT アドバンステクノロジー(株) グローバル事業本部環境ビジネスユニット EMC チーム 主任技師 |
| | 橋高 大造 | (一社)電波産業会 研究開発本部電磁環境グループ |
| | 高岡 宏行 | (一社)日本配線システム工業会 |
| | 徳田 正満 | 東京大学大学院 新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻大崎研究室 客員共同研究員 |
| | 中野 美隆 | (一社)日本電機工業会 家電部技術課 主任 |
| | 橋本 明記 | 日本放送協会 技術局送受信技術センター企画部 副部長 |
| | 前川 恭範 | ダイキン工業(株) 滋賀製作所空調生産本部企画部 |
| | 三塚 展幸 | (一財)テレコムエンジニアリングセンター 松戸試験所電磁環境・較正事業 本部電磁環境試験部試験グループ 主任技師 |

(事務局)

| | |
|--------|------------------------------|
| 谷口 智哉 | 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁監視官 |
| 戸部 絢一郎 | 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電磁障害係長 |

配布資料：

| | |
|-----------|--|
| 資料 18-0 | 議事次第 |
| 資料 18-1 | CISPR F 作業班 (第 17 回) 議事要旨(案) |
| 資料 18-2-1 | CISPR 釜山会議 F 小委員会 総会 審議結果(案) |
| 資料 18-2-2 | CISPR 釜山会議 F 小委員会 第 1 作業班(WG1) 審議結果(案) |
| 資料 18-2-3 | CISPR 釜山会議 F 小委員会 第 2 作業班(WG2) 審議結果(案) |
| 資料 18-3-1 | 電波利用環境委員会報告概要(案)(F 小委員会関連) |
| 資料 18-3-2 | 電波利用環境委員会報告(案)(F 小委員会関連) |
| 参考資料 18-1 | CISPR F 作業班 構成員名 |

議事：

※括弧内は発言者（敬称略）

(1) 前回議事要旨（案）について

- 資料 18-1 の前回議事要旨（案）についての説明（事務局）
※修正意見等あれば 12 月 5 日（水）までに事務局まで連絡することで承認された

(2) CISPR 釜山会議 審議結果（案）について

<資料説明>

※主な項目のみ記載

- 資料 18-2-1 CISPR 釜山会議 F 小委員会 総会 審議結果（案）についての説明（山下）
 - 審議項目 4 について、審議の進め方（CD 文書の扱い）について確認された
 - 審議項目 5.2 について、ハンガリー、ロシアが過去 3 年間不参加である事が確認された
 - 審議項目 5.3 について、各 WG のコンビナが継続する事が確認された
 - 審議項目 7.3.1 について、CDV に進められた
 - 審議項目 7.3.2、7.3.3 について、投票結果 100%賛成で可決された
 - 審議項目 7.4 について、CDV に進められた（許容値の審議はプレナリで審議する）
 - 審議項目 7.5 について、議長から IPT 機器に対する許容値について、各国から意見が求められ、韓国、日本、ノルウェー等から意見が出された。議長より審議の進め方についていくつかの方法が提示され、その中で審議の継続と並行して CISPR16-4-4 に従って許容値を再計算する方法が選択された
 - 審議項目 8.2.1、8.2.2 について、投票結果 100%賛成で可決された
 - 審議項目 8.2.3 について、CDV に進められた
 - 審議項目 8.2.4 について、Radio enable equipment について、今回のメンテナンス作業の対象としない事を確認した
 - 審議項目 13.2.1 について、1stCD が発行された
 - 審議項目 15 について、その他：Personal Mobility Device について、CISPR12 の適用範囲となる事が確認された
 - 審議項目 16 について、WG1、WG2 にて実施すべき項目が確認された
 - 審議項目 17 について、今後の会合予定（2019 年 10 月上海）が確認された

<質疑>

- 審議項目 7.5、CISPR16-4-4 について、まだモデル化されていないということか（三塚）
 - 既にモデル化されているが、そのモデルが適切ではない可能性があるとの指摘がされた（山下）
 - 審議の継続と並行して、モデルの検証をすることとなった（前川）
 - CISPR16-4-4 は CISPR23 や CISPR11などを基にしている計算方法である（井上）
 - 様々な要因を積み上げ的に計算（モデル化）を行わないといけないという理解をした（三塚）
 - CISPR16-4-4 については、絶えず議論は行われている（徳田）
 - CISPR16-4-4 に従わなくてはならないルールが既にあるが、CISPR/D でルールに従わなかった

- ために FDIS が否決された事例もあり、無視するわけにはいかない(事務局)
- CISPR/H の中で、CISPR16-4-4 を改定するべきという議論もある(事務局)
- 許容値の根拠を明確にする必要があるという認識であるが、非現実的な低い許容値の要求もあり、議論を決着させるには時間を要する(井上)
- 会合にて、反対意見を出したのは北欧の代表団 (IARU)であった(山下)
- 今後、IPT の議論をひっくり返される可能性もあり、注意してほしい(事務局)
- 審議項目 13.1.2、30Mhz 以下のサイト評価方法について、「簡単に適合できない問題がある」という表現は誤解がある(三塚)
 - ヨーロッパの電波暗室は日本と構造が異なり、低周波が入らないために問題となっている(山下)
 - 今の文言だと、評価方法に問題があるという捉え方になってしまう(三塚)
 - ◇ 評価方法には問題がない旨の文言に修正する(山下)
- 審議項目 17、次回会合の予定について、上海で開催するのは確定ではないのか(三塚)
 - 上海である事は確定しているが、日程はまだ確定してない(山下)
 - 議事録上は 2019 年 10 月 14 日から開催されると記載されている(事務局)
 - ◇ 「CISPR 全体としては 2019 年 10 月 14 日から上海開催する予定であると伝えられた」と記載する(山下)
- LED ドライバーとは何か(三塚)
 - 照明の電源(インバータ等)である(山下)

<資料説明>

※主な項目のみ記載

- 資料 18-2-2 CISPR 釜山会議 F 小委員会 第 1 作業班(WG1) 審議結果(案)についての説明(前川)
 - 審議項目 6.1 について、昨年の会合の決議事項が確認された
 - 審議項目 6.2 について、決議 18-02、18-03 を CDV に進められた
 - 審議項目 6.4 について、FDIS の作成方針について確認がされた
 - 審議項目 8.2 について、CDV に進められた
 - 審議項目 8.3、8.4 について、投票結果 100%賛成で可決された
 - 審議項目 8.5 について、CDV に進められた
 - 審議項目 9.2、9.3 について、投票結果 100%賛成で可決された
 - 審議項目 9.4 について、CDV に進められた
 - 審議項目 9.5 について、CDV に進められた
 - 審議項目 10.3 について、DC ポート規格についてアドホックグループが作られた(日本は参加を見送り)
 - 審議項目 12 について、今後の会合予定(2019 年 1 月 WEB 会議、2019 年 4 月ザルツブルグ、2019 年 10 月上海)が確認された

<質疑>

- 審議項目 8.2、通常の使用状況で最大となる妨害波を測定するという考え方ではいけないのか(三

塚)

- IH 調理器等、様々な使用状況(使用する鍋等)が考えられるため、それらを考慮しなくてはならない(山下)
- IPT に関しては、他の場でも議論されており、変な認識を作りたくないため、情報があれば共有してほしい(三塚)

<資料説明>

※主な項目のみ記載

- 資料 1 8-2-3 CISPR 釜山会議 F 小委員会 第 2 作業班(WG2) 審議結果(案)についての説明(高岡)
 - 審議項目 6.2 について、9 つの主要な議題について議論された
 - 審議項目 7.2 について、擬似標準器具と実器具の比較について、議論された
 - 審議項目 9 について、今後の会合予定(2019 年 3 月頃中間会合を予定、2019 年 10 月上海)が確認された

<質疑>

- 審議項目 6.2(5) について、LLAS 法におけるラージループアンテナの直径が 1m ということか(三塚)
 - 測定を行うために、ラージループアンテナの中に、EUT で 1 平米のループを作る必要があるということである(高岡)
 - 分かり易い表現をするべきではないか(三塚)
 - ◇ 対応する(高岡)
- CISPR32 の対応の切り分けについて、状況はどうか(事務局)
 - 現在 CISPR/F と CISPR/I のコンビナ同士で調整をしている(平伴)

(3) 電波利用環境委員会 報告書(案) について

<資料説明>

- 資料 1 8-3-1 電波利用環境委員会報告概要(案)(F 小委員会関連)、資料 1 8-3-2 電波利用環境委員会報告(案)(F 小委員会関連)についての説明(山下)
 - 資料中の CISPR/F に関する審議結果が資料中赤字で追記されており、その内容が説明された

<質疑>

- 資料 1 8-3-2 の CISPR/TR16-4-4 について、日本語のタイトルを注記したほうが分かり易いのではないか(井上)
 - 報告書内に追記するようにする(事務局)
- 1 8-3-1 の 2 ページ目「確実に修正 1 として導入される見込みである」の表現が、今後すべての機器について GHz 帯まで測る必要があるという誤解を生むのではないか(井上)
 - 現状では GHz 帯まで測る機器は少ないとの説明を加える事ではどうか(徳田)
 - ◇ 対応する(山下)
 - GHz 帯を測る必要がある機器は何か(大武)
 - クロック周波数が 108MHz を超える機器が対象である(山下)

- 資料18-3-2の2ページ目「提案しているよりも非常に低い値とする提案があった」の表現が誤解を生むのではないかと(井上)
 - 実際に-40dBにしてほしいという要求は出ており、問題ない(事務局)
 - -40dBの値で決定する事はないと考えており、今後調整が入ると考えられる(山下)
 - 「計算する必要があるという指摘がされた」に変更することでどうか(井上)
 - 対応する(山下)
- 資料18-3-2の9ページ目、赤字部分について検討の結果だけでなく、検討内容(対象、理由等)も記載してほしい(井上)
 - 対応する(山下)

(4) その他

- 本日の指摘事項は29日中に修正をしてメール審議を行う形を取りたい(山下)
 - 問題ない(事務局)
- Radio enable 機器に関して、欧州と日本で取り扱いの認識が異なるため、CISPRの対象とするべきという議論がステアリング会合で行われており、今後、対応が必要になる可能性がある(事務局)
- 今後の予定として、12月5日の電波利用環境委員会でCISPR釜山会議の報告を実施する(事務局)
- 次回会合は、事務局から構成員にメールにて連絡する(事務局)

以上